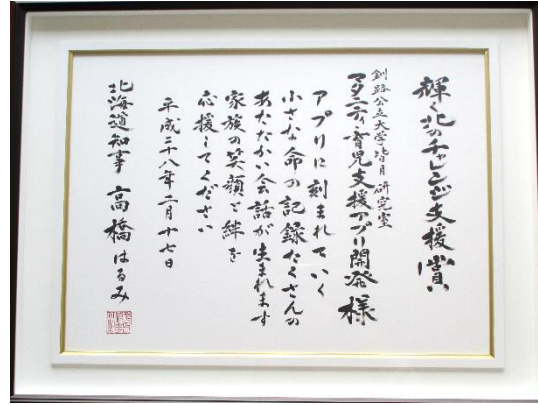


★ 表彰状 … 揮毫 平田鳥閑氏  
☆輝く女性のチャレンジ賞☆

長岡 行子さん



☆輝く北のチャレンジ支援賞☆  
釧路公立大学皆月研究室  
マタニティ・育児支援アプリ開発



★ 副賞 … 道産くるみ材製掛け時計

# 平成27年度 北海道男女平等参画 チャレンジ賞

## ★これまでの受賞者★

- 平成26年度  
輝く北のチャレンジ賞 … 釧路モカ女性プロジェクト（代表 森崎三記子さん 釧路市）  
輝く北のチャレンジ支援賞 … 株式会社ダイナックス（代表取締役社長 福村景範さん 千歳市）
- 平成25年度  
輝く女性のチャレンジ賞 … 廣瀬久美さん（株式会社富良野タクシー 介護・福祉ショッポ ボビー経営 富良野市）  
輝く北のチャレンジ賞 … 旭川医科大学 二輪草センター（センター長 山本明美さん 旭川市）
- 平成24年度  
輝く北のチャレンジ賞 … ふるさと倶楽部「ガル」（代表 田中照子さん 石狩市）  
輝く北のチャレンジ賞 … 高齢者コミュニティビジネス団体 麻の会（代表 赤崎壽子さん 白老町）
- 平成23年度  
輝く女性のチャレンジ賞 … 小梅洋子さん（かあちゃん食堂「たまりば」経営 江差町）  
輝く北のチャレンジ賞 … 不登校・登校拒否と向き合う親の会「はるにれの会」（共同代表 清水マチ子さん、川尻博恵さん 帯広市）
- 平成22年度  
輝く女性のチャレンジ賞 … 惣万栄子さん（NPO法人「利尻ふる里・島づくりセンター」職員 利尻町）  
輝く北のチャレンジ賞 … 東鷹栖食品加工販売協議会（代表 松倉洋子さん 旭川市）
- 平成21年度  
輝く女性のチャレンジ賞 … 梅木あゆみさん（(有)コテージガーデン代表取締役 月形町）  
輝く北のチャレンジ賞 … 本町かみさん会（会長 村田陽子さん 石狩市）
- 平成20年度  
輝く男性のチャレンジ賞 … 坂田秀明さん（置戸町観光協会事務局長 置戸町）  
輝く北のチャレンジ賞 … レディース100年の森 林業グループ（代表 鷹嘴充子さん 南富良野町）  
輝く北のチャレンジ支援賞 … 札幌市立藤の沢小学校保護者と教師の会（会長 星卓志さん 札幌市）
- 平成19年度  
輝く女性のチャレンジ賞 … 湯浅優子さん（「つつちゃんと優子の牧場のへや」経営 新得町）  
輝く女性のチャレンジ賞 … 谷あゆみさん（ばんえい競馬調教師、谷厩舎経営 帯広市）  
輝く女性のチャレンジ賞 … 川上博美さん（(株)コサイン社員 旭川市）
- 平成18年度  
輝く女性のチャレンジ賞 … 斎藤ちずさん（NPO法人「コンカリーニョ」理事長 札幌市）  
輝く女性のチャレンジ賞 … 岡田ミナ子さん（(有)トゥリリアム・オカダ・ファーム取締役 遠軽町）  
輝く女性のチャレンジ賞 … 古内一枝さん（(株)スポーツショップ古内取締役 札幌市）
- 平成17年度  
輝く女性のチャレンジ賞 … 田澤由利さん（(株)ワイススタッフ代表取締役 北見市）  
輝く北のチャレンジ賞 … NPO法人お助けネット（代表 中谷通恵さん 白老町）  
輝く北のチャレンジ賞 … 西川マザーウッズ（会長 船越孝子さん 静内町）
- 平成16年度  
輝く女性のチャレンジ賞 … 星川光子さん（NPO法人「いぶりたすけ愛」理事長 登別市）  
輝く男性のチャレンジ賞 … 馬淵悟さん（北海道東海大学教授 札幌市）  
輝く北のチャレンジ支援賞 … 株式会社アイワード（代表取締役 木野口功さん 札幌市）

長岡行子さん（後列左から3人目）



皆月代表（右）と  
釧路公立大学皆月研究室  
マタニティ・育児支援アプリ開発の皆さん



平成27年度北海道男女平等参画チャレンジ賞を受賞された皆様、おめでとうございます。

平成16年度に創設したこの賞は、それぞれの個性と能力を活かして活躍されている方々の活動をたたえるとともに、その活動を広く紹介することで、男女平等参画社会実現への気運を高めることを目指して、これまで素晴らしい取組にチャレンジしている14個人、13団体の方々を表彰してまいりました。

今年度は、「理美容業を通して、福祉や教育など様々な分野で、地域の人々をつなげる取組」や、「産科の少ない地域が増える中、マタニティや子育て家族を応援するアプリの開発」という地域に新たな活力をもたらす取組に、この賞をお贈りさせていただくことになりました。

今後も、このような取組が、道内各地に広がり、道民の皆様の新たなチャレンジが続いていくことを期待しています。

受賞された皆様におかれましては、今後も一層ご活躍され、ますます輝きを増していられることを、心からお祈り申し上げます。

受賞された皆さまへ

北海道男女平等参画審議会専門部会 部会長  
北海道経済連合会 労働政策局長 高山 淳一

平成27年度北海道男女平等参画チャレンジ賞を受賞された皆さまに、心からお祝い申し上げます。

今年度は、地域づくりや子育て支援に積極的に取り組んでいる方々の応募が多く見受けられ、どれも大変素晴らしい活動でしたが、その中でも、自らの仕事から視野を広げ、つながりを生み出す活動や、地域の現状を考察し、出産や育児を支援する活動を高く評価し、選考させていただきました。

長岡行子さん（帯広市／出張理美容サービス VESS 代表）は、理美容を通して、子どもからお年寄りまで地域の人々を笑顔にする様々な活動にチャレンジしつづけており、地域の人と人をつなぐ架け橋として、ご活躍されています。

釧路公立大学皆月研究室 マタニティ・育児支援アプリ開発（釧路市）の皆さんは、広い北海道において、医療が十分に行き届かない地域が増える中、マタニティや育児を支援する様々なアプリを開発し、妊婦の方々やそのご家族にたくさんの安心をお届けするとともに、大学と地域の新たなつながりも生み出しています。

受賞者の皆さまの取組は、どちらも地域の人々が元気と活力を感じるものです。これからも、受賞者の皆さまのより一層のご活躍と、元気な北海道を目指す、さらなるチャレンジを期待しています。

《北海道男女平等参画チャレンジ賞とは》

職場、地域、家庭その他の社会のあらゆる分野で、それぞれの個性と能力を生かしてチャレンジし、活躍している男性や女性、団体・グループ及びそのようなチャレンジを支援している団体・グループを顕彰し、チャレンジの身近なモデルを示すことによって、男女平等参画社会実現への気運を高めることを目的としています。自薦・他薦を問わず候補者を募集しています。

賞の種類は次のとおりです。

- ・ 輝く女性のチャレンジ賞（受賞者が女性個人の場合）
- ・ 輝く男性のチャレンジ賞（受賞者が男性個人の場合）
- ・ 輝く北のチャレンジ賞（受賞者が団体・グループの場合）
- ・ 輝く北のチャレンジ支援賞（チャレンジを支援している団体・グループの場合）

★輝く女性のチャレンジ賞

ながおか ゆきこ  
長岡 行子さん 出張理美容サービス VESS 代表（帯広市）

全国的にも草分けとなる、出張理美容サービス「VESS」を十勝で始め、介護を必要とする高齢者の自宅や福祉施設の訪問活動を中心として、様々な地域の人々をつなげる活動を展開しています。

車いすや寝たきりの方々に、出張の着付けと写真撮影をするために立ち上げたプロジェクトチーム「いつも手をつないで」では、地域の異業種の方々が協力し合い、利用者の記念日をサポートしています。障がいを持つ方の結婚式の際には、ドレスや式場にマッチするブライダル専用の純白の車いすを提供するなど、様々な事情で諦めかけていた夢のプランのお手伝いを行っています。

また、子どもたちに職業体験をしてもらう「キッズトライ」や、障がいのある子どもたちを対象とした「就労支援型キッズトライ」を、地域の方々やプロの職人の方々の協力のもと企画・開催しており、子どもたちの夢や支援の輪を広げています。

さらに、産前産後ケアの専門家と連携しながら、地域のお母さんをサポートする取組や、地域の青年会議所や商工会青年部の方々の協力のもと、親同士の交流の場づくりなども進めています。



今年は、車いす利用者が快適に生活するための情報誌を発行するために、インターネットのクラウドファンディングサービスを利用して資金を募り、障がいのある方々への理解や交流拡大を目指し、活動しています。

スタッフの中には、ケガや病気、結婚や出産などで、仕事や現場から離れていた女性も多く、そうした女性の皆さんが復帰し、ハートフル美容師や上級訪問美容師などの資格認定を受け、自らの技術向上にも熱心に取り組んで活動している姿は、地域の方々に元気を与えています。これからも、様々な業種や地域の人と人をつなげ、笑顔が広がる場を作りつづけます。



★輝く北のチャレンジ支援賞

みなづき  
釧路公立大学皆月研究室 マタニティ・育児支援アプリ開発（釧路市）

出産や子育て経験のない学生たちが、家族や地域のマタニティ、保健師や助産師などの意見・要望を自分たちの足で収集し、協力し合いながら、出産や子育てを支援する様々なアプリを開発しています。

たとえば、妊娠や出産を支援する「陣痛ダイアリー」では、陣痛の始まりと終わりにボタンを押す単純な操作で、陣痛発生の時間や間隔などが記録され、病院連絡へのタイミングなどがアドバイスされます。産科病院が減少したり、なくなるなどして、都市部の病院までに時間を要する地域のお母さんや家族にとっては、大変心強いものです。

また、育児支援アプリ「おっぱいですよ」では、授乳データをもとに、赤ちゃんとお母さんの生活リズムや母乳時間の間隔を知ることができる上、助産師監修のコメントが表示され、授乳への知識や赤ちゃんの状態への気づきにもつながります。

それぞれのアプリの主な対象はマタニティやお母さんですが、スマートフォン特有の機能を活かし、入力情報を共有することができます。家庭内で行われる子育ての苦労は見えにくい部分がありますが、陣痛時間やおむつの交換回数などの記録データを夫婦や家族全体で共有することで、みんなで子育てをしている意識が生まれ、家族の絆が深まるきっかけとなっています。

また、アプリの利用者が、地域の大学の役割に期待感を持つようになったことで、地域のマタニティに関する現状が大学側にフィードバックされるなど、大学と地域との新たなつながりも生まれました。

活動は5年間続けられており、全国での利用も広まっています。北海道の地域に根ざす大学ならではの視点でアプリを開発し、道民のみならず、全国のマタニティや育児をする家族・地域を応援しつづけます。

